

## 2 生徒指導の三機能を働かせた教科等の授業づくり

### (1) 生徒指導の三機能を働かせた教科等の授業づくり

いじめの防止等の取組を充実させるには、開発的な生徒指導を推進し、すべての子どもに自己指導能力を育み、結果として、いじめが生じにくい・いじめを許さない学校づくりを進めることが大切です。

そのためには、子どもに「自己存在感を与える」「共感的な人間関係を育成する」、「自己決定の場を与える」という生徒指導の三機能を働かせることが大切であるとされています。

例えば、名前と呼ばれたり、目を見て会話をしたりする行為と、その逆の行為では自己存在感の感じ方は違うはずです。人と違った発言でも否定されない学級と、それに対して馬鹿にした発言や否定的な評価が行われる学級。自分が決めたことを実行する経験を繰り返した子どもと、教師に決められたことを決められたとおりにやる経験を繰り返した子ども。こう考えれば、この三機能は教育のあらゆる場面に働いていることと、その大切さに気付かされます。言い換えれば、「生徒指導の三機能を働かせる」とは、すべての子どもに『活躍の場』を与えることです。

学校で行われる教育活動の大部分の時間は、教科等の授業です。それぞれの教科等の学習指導には、それぞれの目標やねらいがあります。各教科等の授業においてその目標やねらいを達成することが第一義的に求められることは言うまでもありません。

しかし、その授業が知識の理解を目的にして、一方的に教師からの学習内容の伝達であったり、技能の習得を目的にして、結果だけが評価されたりするような授業では、本来の目的は達成できません。

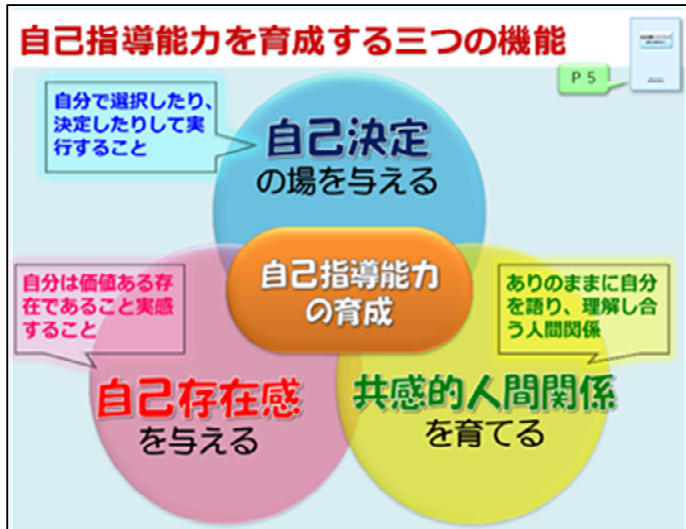

なぜなら、授業の中では、教科等の目標を達成するためにも、一人一人の子どもが授業に参加する意義を見出し、互いに相手を受容し、自分の考えをもち他者に伝えることを繰り返し行っていくことが、とても大切だからです。そこには、「自己存在感を与える」、「共感的な人間関係を育む」、「自己決定の場を与える」という生徒指導の三機能が働いており、それが授業自体を成立させることや、教科の指導を充実させることにつながっています。

また、今回の学習指導要領の改訂で示された「主体的・対話的で深い学び」を実現させるためにも非常に深い関連があります。

**自己指導能力とは？** P 4

児童生徒が、日常生活の中のそれぞれの場で、他者とのかわり中で、課題を見出し、どのような選択が適切であるかを**自分で判断し、実行し、その言動に責任をもつことができる力**

つまり、**他の人のためにもなり、自分のためにもなる行動をする力**のことです。



## 小学校の実践例 「第3学年 国語科学習指導案」(一部省略)

1 単元名 「こま図かんを作ろう」(教材：言葉で遊ぼう／こまを楽しむ) 光村図書

2 単元について

### 【単元観】

第3学年及び第4学年「C読むこと」の内容

(エ) 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章等を引用したり要約したりすること。

本単元は、学年最初の説明文を二教材で構成している。「言葉遊び」も「こま」も子どもにはなじみのある遊びであるため、児童が興味をもって取り組むことができる教材である。見開きで全文を見渡せる第一教材で、その学年の説明文の読み取り方を習得し、より長くやや構造の複雑な第二教材で学んだ力を活用し、定着を図ることをねらっている。第一教材「言葉で遊ぼう」では、まず、「段落」というものがどういうものかを確認する。そして、全体が「はじめ」「中」「おわり」の三つのまとまりに分かれること、「はじめ」に「問い」があって、「中」に「問い」に対する「答え」となる事例が列挙されていること、「おわり」には、全体のまとめが記されていること等を、段落に注意して捉えさせたい。第二教材「こまを楽しむ」も同様の構造であるから、二つの文章を読むことで、説明的な文章を正確に読み取るために必要な「段落」に基づいて、全体構成をつかむ力を育むことができる。

### 【児童観】

本学級の児童は、2年生で「ビーバーの大工事」や「虫は道具をもっている」で、「問い」に対する「答え」を見つけまとめる活動や、段落分けや場面分け等の学習をしている。「はじめ」「中」「おわり」というまとまりについては、説明的な文章や日記等で繰り返し学習しているが、「まとまり」と「段落」を意識して文章を読んでいくのは本単元が初めてである。

児童の実態としては、本を読んだり、文章を読んだりすることが好きな児童が多くいる。読んだり思いを書いたりすることは好きだが、思いを伝えたり発表したりする活動では、「考えていることがうまく言葉で表現できない」ことで、発表できない児童がいることが課題である。また、自分の意見に自信がなく、積極的にみんなの前で考えを表すことが難しい児童が多数いる。

単元で学び取らせたいこと・子どもの実態  
↓  
学習指導に生徒指導の三機能をどう働かせるか



事前検討で下線部分に、生徒指導の三機能を働かせることができるのではないかと話しました。

### 【指導観】

本単元では、「自分の考えを書くために必要な部分を、説明文から引用することができる」という言語活動を設定している。そこで、「こま図かんを作ろう」という目標を目指して、子どもが意欲的に取り組めるようにするとともに、説明文の内容をしっかりと読み取り、活用する力を付けていきたい。まず、「はじめ」にある、「どんなこまがあるでしょう。また、どんな楽しみ方があるでしょう。」という2つの問いに対する答えを見つけ、説明文の文章構成をつかみ、国語学習シートにまとめていく。次に、自分が考えたオリジナルのこまを、説明に必要な言葉を使って聞き手に分かりやすい文章を構成する。また、説明文の段落構成や、文章構成を繰り返し確認し、説明文に書かれている言葉を使いながら自信をもって紹介文が書けるようにしたい。

本時では、前時で作成した国語学習シートをもとに、既習の文章構成を意識しながら自分が考えたオリジナルのこまの紹介文を書いていく。第二教材「こまを楽しむ」の「中」の文章構成（「こまの名前」「どんなこまか」「こまの楽しみ方」「特徴」等）を活用し、自分の考えが明確になるように文章を構成させたい。そして、できあがった文章を読むことや、ペアに分かりやすく説明するために声の大きさや速さを工夫しながら伝える活動も取り入れている。完成した「こま図かん」は、図書室に置いてもらい、全校に見てもらうことで達成感を味わえるようにしたい。

3 本時の指導 (10/11)

事前検討で協議された、生徒指導の三機能を働かせた授業づくりの手立てについて、吹き出しの中に記載しています。

(1) 本時の目標

自分が作りたいこまについて、考えが明確になるように文章を構成することができる。



(2) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意点 ○教科の留意事項 ★キャリア教育視点での留意事項	評価規準 評価方法
導入	1 前時までを振り返る。 ・学習の流れを確認する ・「中」を音読する ・キーワードの確認	○定型文を意識させながら読ませる。 ○既習事項の掲示物で振り返らせるようにする。	
	2 めあての確認	<p>分かりやすいしょうかい文を書こう。</p>	
展開	3 表をもとに、オリジナルのこまの紹介文を書く。(個人) ・「こまの名前」「どんなこまか」「こまの楽しみ方」「特徴」等を書く。	○支援が必要な児童には、「お助けワークシート」を用意する。	・文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、文章を構成している。 (国語学習シート) 【C 読むこと(1)エ】
	4 ペアで交流する。(ペア) ・掲示物で聞き方の確認をする。	★相手が理解しやすいように、声の大きさや姿勢に気を付けて発表させる。 ・絵を見せながら紹介することを伝える。	<p><b>共感的人間関係、自己存在感</b> ★日常のつみあげを生かすことを意識して、指導します。 <b>「交りゅうのプロ！」</b> ・向き合う ・聞こえる声で話す。 ・うなずきながら聞く。 ・よい所を伝える。</p>
	5 発表する。(全体) ・ペア交流で聞いた、よいと思った友だちの作品を推薦して発表する。	★友だちの考えを、うなずいたり共感したりしながら聞けるように促す。	
	<p><b>自己決定</b> ★補助文のあるシートを使うかどうか、安心して選べる方法は？ ↓ ・両面に印刷して、子どもが選ぶようにする。 ・書いている途中でも、様式を変更してよい。 ・両面にして1枚にすることで、机の上をすっきりとさせ、学びに集中できるようにする。</p>		
	<p><b>共感的人間関係、自己存在感</b> ★自分の意見に自信をもてるようにするには？ ★考えを表すことに意欲をもち、達成感を味わえるようにするには？  →「4」の活動で、キーワードに基づいて書かれているか、伝え方のよいところはどこかに目を向けながら、聞き合う活動を設定し、「5」では、自分が見つけた友だちのよさを根拠にして発表者を推薦できるようにする。 →推薦されることで、「自分の文章や伝え方にはよいところがある」と自信をもって発表できるようにする。</p>		
まとめ	6 まとめをする。 ・表をもとに文章を組み立てることができたかを確認する。 ・振り返りシートを書く。	○振り返りシートの感想を発表させる。	

## 授業の様子

めあて 分かりやすいしょうかい文を書こう



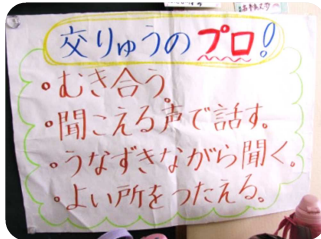
← 国語シートを活用して、紹介文を書きます。普通のシートとお助けシートが裏表になっていて、自分で書きやすい方を選べます。ヒントが欲しい子どもだけではなく、全員に配ることで自己決定につながるとともに、書きにくければいつでも書きやすい方に切り替えられるので、自己肯定感を下げない手立てにもなっていました。



「この後ペアで交流すること」を伝え、早く書き終わった子どもに対して「心の中で読む練習をしてね」という指示がありました。書き終えた子どもは、何度も自分の文章を読み、気付いたところを書き直す姿が見えました。次の指示があることで、安心して授業に参加することができました。

子どもの思考をさえぎらないように、側に寄って小さな声で声かけをして回ります。質問がある子どもも、静かに手を挙げ先生が来てくれるのを待っていました。

15分で、ほとんどの子どもが自分のこまの紹介文を書ききることができていました。普段から学習ルールを身に付ける手立てをしっかりとされていることが分かる場面でした。



私の考えたコマは…。



← わかりやすい文章だなと思う友だちを紹介し、紹介された子どもがオリジナルのこまの絵を見せながら、紹介文を読みあげています。自分から発表することが苦手な子どもも、友だちに推薦されることで自信をもって読むことができていました。

聞いている子どもに、「キーワードを見つけられたかな?」、「自分の紹介文にこのキーワードが入っている人いますか?」等投げかけ、授業のめあてに立ち返りながら、主体的な姿を引き出すことができていました。

## 事後研の様子

校区の小中学校の先生方が一緒に協議をしました。



「自分の授業に取り入れられるところがたくさんあった」と言われていた方がいました。中学校区で大切にしたい授業づくりの視点を確認できました。



グループごとによさや改善点を話し合い、発表しているところです。

改善点として多くあげられたのが、「推薦する際に理由を言わせると、キーワードが明確になってよいのではないか」という意見でした。

★「生徒指導の三機能」という共通の視点をもとに、中学校区の先生が授業について協議する機会を何度ももった推進校区です。共通の授業評価表を使い、可視化も図っています。

## (2) 自発的、自治的態度を育む学級活動

「高知県いじめ防止基本方針」（平成 29 年 10 月改定）では、学校におけるいじめの防止等に関する措置の「いじめの防止」において、以下の内容を示しています。

「高知県いじめ防止基本方針」より

### ① いじめの防止

いじめはどの子どもにも起こりうるという事実を踏まえ、すべての子どもを対象に、いじめに向かわせないための未然防止の取組として、子どもが自主的にいじめの問題について考え、議論すること等のいじめの防止に資する活動に取り組む。（中略）

また、未然防止の基本は、子どもが心の通じ合うコミュニケーション能力を育み、規律正しい態度で授業や行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくりを行う。

加えて、集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、いたずらにストレスにとらわれることなく、互いを認め合える人間関係・学級風土をつくる。

これらのいじめの防止に資する内容には、「なすことによって学ぶ」特別活動の充実、とりわけ「学級活動（ホームルーム活動）」と関連が深いことが分かります。以下、学習指導要領には次のように記述されています。

学級活動における子どもの自発的、自治的な活動を中心として、各活動と学校行事を相互に関連付けながら、個々の子どもについての理解を深め、教師と子ども、子ども相互の信頼関係を育み、学級経営の充実を図ること。その際、特にいじめの未然防止等を含めた生徒指導との関連を図るようにすること。

学級活動は、子どもが日常生活を営む上で必要な様々な行動の仕方を、計画的、発展的に指導する教育活動であり、各教科等の時間以上に生徒指導の機能が多く作用していると考えられます。言い換えると、学級活動の時間は、生徒指導が中心に行われる場とも言えます。

### 実践事例 小学校 学級活動（1）

## 第6学年 学級活動（1）指導案

- 1 議題 6-1 みんなが団結して思い出に残るギネスブックをつくろう  
ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

### 2 児童の実態

本学級の児童は、個性豊かで明るく活発な子が多い。クラス替えのあった4月当初は互いの個性を受け入れられずトラブルも多かったが、行事や班活動を経験する度にお互いを理解し合い、児童同士のつながりが強くなってきている。1学期の終わり頃には、残り少ない小学校生活において、卒業までにみんなとの思い出を作りたいといった意識も出始めてきた。しかし、学級が少しずつまとまってきた反面、心ない発言で友だちを傷つけたり、自分の思いを押し通そうとする言動で友だちとのトラブルを引き起こしたりする場面も見られる。

児童は、4月当初より様々な議題について話合いの経験を積み、基本的な話合いの進め方や、意見の集約の仕方が身に付いてきている。また、学級での取組を生かして、委員会活動でも児童が中心となって話合いを進めることができるようになってきた。しかし、友だちの意見を受けた意見や、新しい意見、折衷案等を言える児童は少ない。

これらの実態を踏まえて、学級会だけでなく、普段の生活の中でもそれらを意識し、仲間を思いやる言動を見つけて承認していくことで、徐々に自分の意見と友だちの意見の折り合いを付けることもできるようになってきています。



### 3 指導観

#### (1) 議題選定の理由

「卒業までに、みんなで団結して一つのことを成し遂げたい、そして思い出に残る6-1ギネスブックをつくりたい。」という思いから提案されたものである。3学期は、卒業を控え小学校生活をしめくくるための大切な時期でもある。この活動を通して、最高学年として頑張ってきた自分たちを認め合い、友だちのよさを再確認するとともに、仲間と協力し合いながらみんなで団結して1つのことをつくり上げる達成感を味わい、学級内の人間関係と絆をより深めていきたい。

#### (2) 特別活動において育成する3つの資質・能力から見た視点

##### 【人間関係形成】

- ・お互いの思いを知ることができるよう、ペアで話し合う時間を確保する。
- ・うなずいたり、自分なりの反応ができたたりしている「相手を大事にしている態度」に肯定的な評価を入れる。

##### 【社会参画】

- ・話し合いの経験が生かせるように、今までの学級活動の様子を教室の側面に貼る。
- ・見通しをもつことができるよう、話し合いの流れを掲示する。また、小黒板に「議題」「提案者」「提案理由」「めあて」を掲示し、いつでも何を話し合っているのか振り返ることができるようにする。
- ・短冊ボード、賛成マーク、心配・不安マークを活用し、意見が黒板に残るようにする。

##### 【自己実現】

- ・今日の学級会で頑張っていたことについて、今までの課題と子どもの実態をふまえて、伝えるようにする。
- ・頑張ろうと考えていたことが達成できたかどうか、振り返りの場を保障する。

### 4 第5学年及び第6学年の評価規準

集団行動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団行動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法等について考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方等について理解している。

### 5 事前の活動

#### 【計画委員会の活動】

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法〈 〉
業間休み 昼休み 帰りの会	提案ポストを開けて、議題案を選定する。 ①ギネスブックをつくろう ②学校に思い出を残そう	・各提案の扱いを明らかにし、提案者に伝えられるようにする。 ・選定した議題案について全員に知らせ、承認を得る。	【関心・意欲・態度】 よりよい学級生活づくりのために、進んで議題を選ぼうとしている。(提案カード・観察)
業間休み 昼休み	活動計画と学級会ノートを作成する。	話し合う内容や順序、時間配分を考えて計画を立てるように助言する。	【知識・理解】 みんなが団結し、思い出に残る内容にすることを意識して、話し合わなければならないことを理解している。 〈計画委員会活動計画〉
業間休み 昼休み	・全員の学級会ノートに目を通す。 ・必要に応じて、短冊ボードの準備をする。	話し合いの見通しがもてるようにする。	

業間休み 昼休み	話合いの進め方についてシミュレーションをする。	・進行、板書を実際に行い、うまくいかないところを練習できるようにする。 ・話合いで気をつけることが見えてくるので、気付きをノートや司会マニュアルに書きこんでおくよう話す。	【関心・意欲・態度】 司会・黒板記録等の練習を積極的に行っている。〈観察〉
-------------	-------------------------	--	--

### 【学級全員の活動】

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法〈 〉
帰りの会	議題を決定する。	・6-1のみんなが団結できる、思い出に残るギネスブックをつくるよう話す。 ・計画委員の提案をもとに、全員で決定する。	【関心・意欲・態度】 よりよい学級生活づくりのために、進んで議題について考えようとしている。〈提案カード・観察〉
朝の会	学級会ノートに自分の考えを記入する。	決まっていること(条件)が共通理解できるように、必要に応じて助言する。	【思考・判断・実践】 みんなが団結し思い出に残る内容にすることを念頭に置いて判断し、ノートに書くことができる。〈学級会ノート〉
朝の会	教師からの言葉等が書かれた学級会ノートを受け取る。	学級会ノートに励ましの言葉等を記入し、話合いの意欲を高める。	

## 6 本時の展開

### (1) 本時のねらい

6-1 みんなが団結して、思い出に残るギネスブックの計画を考えることができるようにする。

### (2) 児童の活動計画

議題	提案理由	話合いのめあて	話合いの順序	(20分間)	(15分間)
六の一みんなが団結して、思い出に残るギネスブックをつくらう	卒業が近づき、進学先がわかれてしまう友だちがいる。卒業までにみんなが団結して一つのことをやり遂げたい。そして、思い出に残る六の一ギネスブックをつくりたい。	・みんなが団結して取り組める ・みんなの思い出に残る ・ギネスブックの内容や工夫を考えよう。	①はじめの言葉 ②クラスの歌 ③司会グループの紹介 ④議題の確認 ⑤提案理由の説明 ⑥めあての確認 ⑦決まっていることの確認 ⑧話し合うことの確認 ⑨先生から ⑩話合い	(1)どんなチャレンジにするか 中・ペットボトルチャレンジ20回 ・物語を一人一文書く ・読書千ページ ・風船わり(おしりで割る) ・ドミノ 外・マラソン100キロチャレンジ ・縄跳び千回チャレンジ ・バスケ20連続チャレンジ ・バスケ何回入れるか(一分間) ・バスケ千回チャレンジ	(2)ギネスの工夫を考えよう ・カウントダウンカードを作る ・たすきを作る ・集計カードを作る ・六の一のはちまきを作る ・ゴールラインを作る ・音楽をかける ・ワークシートを作る

#### 司会グループが気を付けること

- ①意見が出ないときは、近くの人と話し合う時間をとる。計画委員も積極的に発表する。
- ②黒板係が困らないように確認しながら進める。
- ③笑顔と相づち、肯定的な言い方を大切にする。

#### 司会グループが気を付けること

- ①できるだけみんなの気持ちを聞く。
- ②笑顔・相づちを特に意識して、楽しい雰囲気有话合いが進むようにする。
- ③めあてに合っているのか、何について話し合っているのか確認する。
- ④まとまらなかったときや困ったときは、一回計画委員で話し合う時間をとる。

### (3) 教師の指導計画

話合いの流れ	* 全体に対する支援、留意点 ・予想される児童の反応	評価規準
1 はじめの言葉	<p>* 議題等は、あらかじめ小黒板に掲示しておく。話合いの流れも掲示しておく。</p> <p>* みんなの緊張が和らぐよう教師も一緒になって振りもつけながら歌う。</p> <p>* 自分のめあてが言えるよう、事前に指導する。 【決まっていること】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期間は2月4～22日まで</li> <li>・外でやること2つ ・中でやること2つ</li> </ul> <p>* 計画委員の頑張りや、聞く態度のよい児童等を具体的にほめ、よい話合いができるように励ます。</p> <p>* 前回の学級会のよい点と反省点を生かせるよう声かけをする。</p> <p>* 児童の思いが黒板に残るようにホワイトボードの短冊、賛成マーク、心配・不安マークを使用できるようにしておく。</p> <p>* 6つの技を使って話合いができるよう、カードを用意する。</p> <p>* アイディアがたくさん出すぎて実現不可能になりそうな場合は、フロアの人に問うように促す。</p> <p>* 出た意見を分類して分かりやすく貼れているか声かけをする。</p> <p>* よかった点や課題について自己評価するとともに、友だちのよかった点についても相互評価ができるようにする。</p> <p>* 提案理由を意識した発言や学級全体を考えた発言、意欲的に参加していた児童を賞賛するとともに、今後の課題を伝える。</p>	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案理由を踏まえて楽しい係について考えて発言している。</li> <li>・友だちの意見を参考にし、新たな意見や折衷案を考えて発言している。</li> </ul> <p>〈観察・学級会ノート〉</p> <p>【知識・理解】</p> <p>話合いの進め方や約束を理解している。〈観察・計画委員会活動計画〉</p>
2 クラスの歌		
3 計画委員の自己紹介		
4 議題の確認		
5 提案理由やめあての確認 決まっていることの確認		
6 先生から		
7 話合い		
①どんなギネスにチャレンジするか。		
②どんな工夫が必要か		
8 決まったことの発表		
9 話合いの振り返り		
10 先生の話		
11 終わりの言葉 (振り返り)		

### 【事後の活動】

日時	児童の活動	指導上の留意点	目指す児童の姿と評価方法〈 〉
帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決まったことを提示する。</li> <li>・係の役割分担をする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級会で決めたことの要点をまとめて書けるよう計画委員に助言する。</li> <li>・協力して活動できるようにするために、複数名で担当する。</li> </ul>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・準備やパーティーに進んで取り組もうとしている。</li> </ul> <p>〈行動観察〉</p>
2/4～22	・ギネスチャレンジ期間	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力したり、工夫したりして活動している児童を称賛する。</li> </ul>	<p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと協力し責任をもって準備したり参加したりしている。</li> </ul> <p>〈行動観察・振り返りカード〉</p>
5時間目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなが団結して思い出に残るギネスブックをつくらう」</li> <li>・ギネス終了後、感想を記入。</li> </ul>		



この事例にあるように、事前指導において、「実際の話合いの場面で、どのようなことが想定されるか」のイメージをもち、司会グループの子ども自身が、解決方法等を考えておくこと（自己決定）で、話合いの停滞やトラブル等を自分たちで乗り越える経験にもなります。

はじめは教師の指導が必要ですが、慣れてくるにつれ、自分たちで考えることができるようになってきます。

これらの経験を積み重ねていくことで、個々の「自己指導能力」が磨かれるとともに、大人がいない状況でも、自分たち自身で課題解決しようとする態度や、話合いで解決する力が育まれていくのです。